

(様式2)

2	4	0	0	1
---	---	---	---	---

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月23日
札幌市立東橋小学校

1 本年度の重点目標

「自ら心を動かし、自信をもって行動できる子」を目指して

2 本年度の経営の重点

学ぶ力	1	「分かる・できる・楽しい」授業づくりに努め、進んで学ぼうとする子どもを育てている。
	2	家庭と連携し、「家勉・家読」など、学習習慣・環境づくりの取組を進めている。
豊かな心	3	「あいさつ・あったか言葉」、係や委員会活動など、生活指導の充実から豊かな心を育てている。
	4	子どもの気持ちや心を温かく受けとめ、子ども理解に基づいた指導を大切に、いじめのない学校づくりに努めている。
健康教育 健康 健やかな体	5	運動に親しむことができる環境づくりと、心と体を大切に学ぼうとしている。
信頼・共有 安全安心	6	お便り、ホームページ、すぐーる配信等を工夫しながら、情報を家庭と共有している。
	7	家庭でも学校でも、子どもが自信をもって取り組む姿を育てている。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1 学校は、「分かる・できる・楽しい」授業づくりに努め、進んで学ぼうとする子どもを育てている。	B	評価結果 児童「3.36」保護者「3.20」教職員「3.21」 今年度は、100周年行事の一環として行う教育実践発表会（来年度、10月に実施）に向けた校内研究を充実させることができた。「算数」「国語」「特別支援」の3つの研究グループはそのままに、他校から授業協力者・助言者を招き、全校研授業に向けた授業づくりや事後の検討会にて、たくさんのアドバイスをいただいた。東橋小学校が大切にしている「子ども一人一人が『分かる・できる・楽しい』授業づくり」が一層前進する年となった。 例年通り、6年生の全国学力状況調査の結果や考察を全職員で共有し、現状把握に努めた。今年度から学力テストは2年生以上の実施に戻し、テスト会社からの結果資料をもとに各学年で分析の上、実態に合った授業改善に活用できた。来年度からは、学校全体の学びの傾向を分析し、東橋の子どもたちの実態に即した「分かる・できる・楽しい」学習につなげ、進んで学ぼうとする子どもを育てていきたい。	A	B
2 学校は、家庭と連携し、「家勉・家読」など、学習習慣・環境づくりの取組を進めている。	B	評価結果 児童「3.26」保護者「3.06」教職員「3.05」 今年度も基礎基本の学力と学習習慣の定着を図るため「家勉・家読」の取組を家庭との連携を大切にしながら進めた。宿題の取組については、方法や内容を学年の発達段階に応じた基準を基に東橋小として一貫した取組が確立してきている。内容についてはプリント、ノート学習、クロムブックを用いた課題などバリエーションをもって行うことができている。 最大の課題は、全ての子どもたちが家庭での学習や読書に取り組めていない、保護者の協力について家庭間に差があるということである。今後もそういった家庭に理解をいただきながら、進めていく方法を模索していく必要がある。	A	B

3	学校は、「あいさつ・あったか言葉」、係や委員会活動など、生活指導の充実から豊かな心を育てている。	A	<p>評価結果 児童「3.39」保護者「3.34」教職員「3.30」</p> <p>3年間継続してきた挨拶運動「スマイルマスター」や「あったか言葉」を意識して使う取組について、より子どもたちの主体性を大切にする活動へのシフトを図った。生活委員会の活動に位置付け、どうすれば一人一人の意識がより高まるのかを話し合うことも大切にしてきた。</p> <p>来年度は子どもたちの考えがより広がるような教師のかかわり方を工夫し、パートナー校や地域・PTAとの連携も軸に据え、小・中・地域が一体となった明るいまちづくりにつなげていきたい。</p>	A	A
4	学校は、子どもの気持ちや心を温かく受けとめ、子ども理解に基づいた指導を大切にし、いじめのない学校づくりに努めている。	A	<p>評価結果 児童「3.51」保護者「3.18」教職員「3.42」</p> <p>昨年度から始まった「シャボテン」の活用が日常に浸透し、毎日の子どもたちの心と体の様子を見守り、不調があったときの即時対応につながったと考える。SCとの連携もよりスムーズになり、必要に応じたカウンセリングを通して児童の「心の安定」につなげることができた。</p> <p>来年度も「シャボテン」を大いに活用するとともに、いじめ対策検討委員会、学びの支援委員会などを充実させていく。児童一人一人の様子を日常的に把握するよう努め、学校全体の温かい人間関係づくりに力を尽くしていきたい。</p>	A	A
5	学校は、運動に親しむことができる環境づくりと、心と体を大切にしたい学びを行っている。	A	<p>評価結果 児童「3.29」保護者「3.24」教職員「3.10」</p> <p>これまでに整備してきた運動環境に笑顔で取り組む姿が定着している。また、廊下に掲示している体力テストの各学年の最高記録を見ることで、記録更新への意欲を高めるとともに、次年度の挑戦心や期待感につながった。「大谷グローブ」を使ったキャッチボール運動（遊び）や縄跳びチャレンジカード達成に向けた練習も休み時間の日常の姿となり、体を積極的に動かすきっかけともなっている。</p> <p>図書室や教室で過ごすことも大いに認めていきながらも、少しでも「体を動かすことが楽しい」と感じられるように、次年度も環境整備と併せて声掛けや振り返る場・目標の設定も考えていきたい。</p>	A	A
6	学校は、お便り、ホームページ、すぐる配信等を工夫しながら、情報を家庭と共有している。	B	<p>評価結果 児童「3.31」保護者「3.35」教職員「3.35」</p> <p>学校からの連絡の手段として「すぐる」アプリを大いに活用することができ、保護者からも好評を得ていると考える。必要に応じてアンケート機能を使うことで、個人情報の管理もより安全になったと考える。</p> <p>しかし、学校ホームページについては、校務パソコンのシステムの大規模な変更により、ニュースで学校の様子をお知らせすることがとても困難な状況となってしまった。「開かれた学校」の一環としてのホームページ活用については、工夫を考えていく必要がある。</p>	A	B
7	学校は、家庭でも学校でも、子どもが自信をもって取り組む姿を育てている。	A	<p>評価結果 児童「3.36」保護者「3.27」教職員「3.42」</p> <p>今年度も年3回の個人懇談（教育相談）を実施し、学校と家庭との情報共有に努めることができ、保護者からの情報を学級経営に反映することで、安心して学校生活を送ることにつながれたと捉えている。</p> <p>学習においては、専科指導の充実や少人数指導としての「こっこつタイム」や「ミニこっこつ」などにより、担任以外の教師が各学級にかかわりをもつ機会を増やし、多くの教師の目で児童を支えるシステムを整えてきたことが子どもの自信につながっていると考える。</p> <p>来年度も、職員体制に合った少人数指導の継続を行い、子どもたちが自信をもって活動する姿が増えることにつなげていきたい。</p>	A	A
学校関係者評価委員より			<p><会議後のご意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の一員として、子どもたちが愛着をもてる地域であるように、引き続き一緒に取り組んでいきたい。100周年に向けて協力できればと思う。 ○子どもの成長を見守り、命を大切にする取り組みがなされている。同じ教育現場として志を同様に高く頑張っていきたい。子どもだけでなく、教師を育てるという観点も重要となっている。 ○将来のことを考えると、配慮ばかりで大事にし過ぎるのではなく、たくましい子（ストレスへの耐性）を育てる視点も重要である。 ○不登校や別室登校に関わっては、専門家や関わる大人の不足、家庭の底力が弱まってきていることも不安材料である。一方でそういった情報は多すぎて選ぶのが大変な面もある。多様な視点をもって子どもの状況や内面にもしっかりと目を配る必要がある。 		